

## ■ 自己採点の朝に ■

センター試験の翌朝、3年生の教室が並ぶ廊下を歩いた。生徒たちの表情には、試験をやり終えた安堵感と自己採点を待つ緊張感が縋い混ざる。教室にはできた生徒とそうでない生徒が混在する。どんな表情で接すればよいか、どんな言葉を掛ければよいか、担任も緊張する朝だ。

センター試験を利用する私立大学がかなりの数に上ることを考えれば、センター試験で高得点がとれるに越したことはない。ただし、自己採点の結果が良かったからといって、合格が決まったわけでもないし、悪かったからといって不合格になったということでもない。最後の試験を終えるまでは浮かれてはいけないし、落ち込む必要もない。

また、センター試験の自己採点は、受けた試験を「自分で採点」しているのであって、「自分の価値を採点」しているのではない。結果が良かったからといって、その人の価値が上がるわけでもないし、悪かったからといって下がることもない。大切なのは、結果を受け止めて、これからどのようにすればよいかということに、前向きに活かしていくことである。

この歳になって振り返ってみれば、今の自分は若い頃の失敗や挫折、失意のどん底を経験したからあるのだと分かる。それらが人生において糧となっているとつくづく感じる。だから、思うほど点数がとれなかった生徒にとっても、長い目で見れば、それはそれで価値のある経験である。

なーんて、格好良く書いているが、これは今だから書けること。自分が18歳で、当事者だったらと考えると、事はそう簡単ではない。現実を受け止め、葛藤し、自分と向き合い、心を整理し、咀嚼・消化し、新たなエネルギーに変え、自信をなくした自分を励まし、奮い立たせていくには、それなりの時間と勇気が必要だ。

これから私大の入試が徐々に本格化し、ひと月後には国公立大学の2次試験が待ち構える。時には布団にくるまって涙をぬぐう夜もあるだろう。それでも、傷つき沈む心をそっと両手ですくい上げる朝もきっとある。「最後まで、どんなことがあっても最後まで。この試練が報われる日は必ず来る」。私の経験がそう語らせる。

